


# 指導資料

 鹿児島県総合教育センター  
平成30年4月発行

## 教育相談 第139号

対象  
校種

小学校 中学校 義務教育学校  
高等学校 特別支援学校

### 「学校楽しいーと」を活用した「チーム学校」としてのケース検討会議の進め方

アセスメントシートとしての「学校楽しいーと」を活用したケース検討会議の在り方を、具体的な事例を通して提案する。ケース検討会議の流れや役割例を示すとともに、ケース検討会議に関わる関係機関についても紹介する。

#### 1 関係機関と連携したケース検討会議について

##### (1) 関係機関との連携

児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題の背景には、複雑に絡み合った社会環境・家庭環境・人間関係があり、学校単独だけでは解決できない状況も見られる。そこで、問題行動・不登校等を防止するために、関係機関と学校が連携し、児童生徒や家庭・地域に働き掛けることで、環境の調整・改善を図っていく。その際、関係機関が個々に児童生徒の環境に働き掛けるのではなく、チームとして計画的に関わっていくことは有効である。

##### (2) ケース検討会議を実施する有効性

児童生徒を支援するに当たり、ケース検討会議では、児童生徒理解が重要となる。そのためには、その児童生徒に関わる職員（担任・生徒指導主任・学年主任・養護教諭・管理職等）が広い視野と長期的な視野の下で、各自のもつ情報を共有し合い、機能的かつ有効な対応のできるチームとしての役割を理解しつつ、専門性を生かしながら支援を行っていく

ことが必要である。

学校関係者だけでなく児童生徒を取り巻く学校以外の関係機関も参加するケース検討会議において、児童生徒の心身の状況を把握しながらチームとしての継続的・計画的な支援を行うことが重要になる。

##### (3) ケース検討会議の目的

ケース検討会議の目的を以下に列挙する。

- 複数の視点により、児童生徒の抱える真の課題への早期の気付きと早期対応
- 担任の「問題の抱え込み」による問題の深刻化の防止
- 担任または、一部の担当者の負担軽減、悩みの解消
- 児童生徒の状態をみながらの継続的支援・指導の実施
- 支援シートを使っての実践事項の計画と確認
- 論点を明確にした話し合いによる的確な意見の集約と会議時間の短縮
- 職員間の連帯意識の向上
- 機関連携のための情報の整理と役割分担

## 2 「学校楽しいーと」について

「学校楽しいーと」とは、学校における適応感を把握するための質問紙である。教育相談課が平成24年度に開発し、平成28年度には「比較用『学校楽しいーと』」を開発した。

児童生徒が、この質問紙に答えることで、教師は自己指導能力の育成に必要な6つの観点（「友達との関係」、「教師との関係」、「学習意欲」、「自己肯定感」、「心身の状況」、「学級集団における適応感」）を客観的に把握できる。また、「比較用『学校楽しいーと』」は複数回実施することで、児童生徒の学校適応感の変容を捉えながらアセスメントを行うことができる。その中でも、児童生徒の強み（「ストロングポイント」）を生かした見立てや手立てを共有することで、より効果的な支援を行うことができる。

## 3 「学校楽しいーと」を活用したケース検討会議の実際

### (1) 事前の準備

- ア 参加者、場所、時間の設定
- イ 資料の準備（支援計画のためのシート、「学校楽しいーと」）

### (2) ケース検討会議の流れ

- ① 参加者の自己紹介、並びに守秘義務の確認をする。
- ② 生徒や保護者の状況を共通理解する。
- ③ 児童生徒の状況をアセスメントする。
- ④ 関係者の役割分担や関わり方を、おおまかに決める。
- ⑤ 次回の日程を確認する。

### (3) 具体的な例

- ① 参加者の自己紹介、並びに守秘義務の確認をする。

校長・生徒指導主任・担任・Aの兄の担任・養護教諭・民生委員・スクールソーシャルワーカー(SSWr)・教育相談担当(コーディネーター)

### ② 生徒や保護者の状況を共通理解する。

中学校1年生のA。9月に入ってから休みがちで、週に3回ほど休む。保護者は子供のことをあまり話したがない。

### ③ 児童生徒の状況をアセスメントする。

Aさんのケース検討会議を始めます。今回は、教育相談担当がコーディネートをいたします。50分を目途に行います。まず、Aさんの担任から、Aさんの「学校楽しいーと」の結果と学級での状況を説明してください。

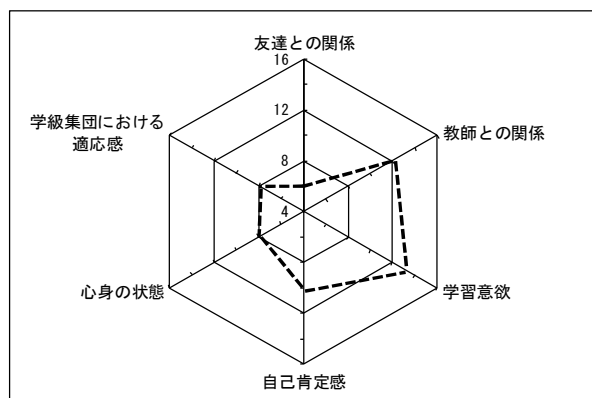


コーディネーター

### 〈各観点の値〉

観点	総計
1 友達との関係	6
2 教師との関係	12
3 学習意欲	13
4 自己肯定感	10
5 心身の状態	8
6 学級集団における適応感	8

### 〈各観点のレーダーチャート〉



5月に実施した「学校楽しいーと」の結果によると、「教師との関係」は12、「学習意欲」は13と比較的高い値になっています。他方、「友達との関係」が6、「学級集団における適応感」が8、「心身の状況」が8と低くなっていることが分かります。



担任

他の参加者が知っておられる情報を、お話しいただけますか。



コーディネーター



養護教諭

お腹が痛いと言って、たびたび保健室にやってきますが少し休むと教室に戻ります。風呂はあまり入ってはいないようで衛生状態はよくないです。朝食のことを聞いても答えませんね。

中学3年生の兄は、どのような状況ですか。



生徒指導主任



兄の担任

よく頑張っており学習態度は、真面目です。友達と話している様子は見られず、また、家のことは話したがりません。

Aさんの学校での状況について、担任から、もう少し詳しく教えていただけますか。また、どなたか、家庭での状況についてご存じのことがありましたら教えてください。



校長



担任

学校では、先生方には、親しく話し掛けてきます。本人は、もう少し勉強を頑張りたいという気持ちをもっているようです。

家庭では、ときどき、大声でお母さんが、怒鳴っているとの情報を得ています。休みの日などは、Aさんは母親の代わりに家事や一日中弟妹の面倒をみている日が多いようですね。



民生委員



担任

家事や幼い弟妹の世話のため宿題をする時間がないと言っていました。部活動もほとんど行っていないようです。学級費も滞納がちです。学級では、友達に対して少しでも気に入らないところがあると暴言を吐いたりトラブルを起こしたりしてしまうことがあります。

家庭に対する周囲からの支えも必要かもしれませんね。困っていることがないか、母親にそれとなく関わってみますね。



民生委員



校長

「学校楽しいと」を見て、何か活かせそうなどころはありませんか。

「学校楽しいと」の中では、比較的「教師との関係性」と「学習意欲」がよい状況ですので活かせそうですね。



養護教諭



コーディネーター

これまでの情報を基に、アセスメントしてみましょう。

### 〈Aさんのアセスメント〉

- ・教師との関係は良好であるが友達との関係が良好でなく、友達から怠けていると思われているため学校に行きたくないのではないかと。
- ・家事等のために宿題ができずに提出できない。部活動も休みがちである。
- ・経済的な状況が良好でなく、本人は学級費の納入遅れを気にしている。

### ④ 関係者の役割分担や関わり方をおおまかに決める。



コーディネーター

チームとして、それぞれの立場で進めることのできる役割を確認していきましょう。御意見をお願いします。

「Aさんと教師との関係性のよさを活かして、教科担任同士が連絡しながらAさんの学習状況を認める」という強み（ストロングポイント）を活かした支援ができないでしょうか。



養護教諭



担任

学級で、Aさんの居場所をつくれるように心掛けます。「教師との関係性」については肯定的に捉えているようなので、Aさんを認める場を積極的につくりますね。「学習意欲」が更に高まるよう、放課後などの短時間の学習支援を先生方にお願いします。



兄の担任

Aさんの安定のためには、保護者との情報交換を綿密にすることが大切だと思います。母親と会ったときには、Aさんの頑張りを伝えるようにします。



スクールソーシャルワーカー

家庭への支援は、学校だけでは難しいので市の福祉課等との連携も図っていききたいと思います。私も家庭訪問しますね。

### 〈支援計画〉

支援方針	誰が、誰に	具体的手立て・役割
本人との信頼関係を強化する。	担任が、Aさんに	活躍の機会をつくり、認める。コミュニケーションの機会を増やす。
学習支援を図る。	教科担任が、Aさんに	欠席による補充と更なる学力向上のために、放課後の学習支援をする。
保護者との情報交換を強化する。	担任や兄の担任が、保護者に	訪問や電話等で保護者と情報交換を積極的にする。Aさんのよい点を伝える。
関係機関や親との連携を進める。	SSWr が、関係機関と親に	福祉課、民生委員を含めた連携を依頼。家庭訪問をして困り感を確認。

## ⑤ 次回の日程を確認する。



コーディネーター

次回のケース検討会議は2週間後の〇月△日□時からの予定です。よろしいでしょうか。今回、確認した役割をそれぞれで進めていただき、次回に報告をお願いします。これで、第1回めのAさんについてのケース検討会議を終わります。

## 4 ケース検討会議に関わる関係諸機関について

ケース検討会議に参加する関係機関の例を挙げる。

必要に応じて参加を要請し、役割に応じて専門的な立場での助言や協力を依頼する。

関係機関	主な役割
スクールソーシャルワーカー	教育と福祉の連携を図りながらいじめ・不登校・暴力行為・虐待などの背景にある家庭・友人関係・地域・学校などへの「環境」の働き掛けを行い、問題行動の解決を図る。
スクールカウンセラー	児童生徒の臨床心理に関して、高度に専門的な知識・経験を有する臨床心理士等が児童生徒や保護者の相談や教職員への研修を通して問題解決等や問題の未然防止を図る。
児童相談所	児童生徒に関する様々な問題について、家庭や学校などから相談に応じること、児童生徒及びその家庭についての必要な調査ならびに医学的・心理的・教育的・社会的及び精神衛生上の判定を行うこと、児童等の一時保護を行う。
適応指導教室	適応指導教室を中心として、学校や家庭、教育委員会、関係機関とのネットワークにより不登校児童生徒の学校復帰を図る。
教育相談員	直接、学校に出掛け、問題を抱える児童生徒の様子を観察し、本人・保護者等との教育相談を個別に行う。専門的な視点から検査などの実施や分析も行う。
民生委員	住民の生活状態を必要に応じて適切に把握する。支援を必要とする者がその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように生活に関する相談に応じ、助言やその他の支援を行う。

市町村の福祉課	健康づくり、母子保健事業に関すること、障害者保健に関することについてライフステージに対応して一貫した支援体制の整備などを進める。
保健師	乳幼児、未就学児に対して集団検診や両親学級、家庭介護教室、電話相談、定期的な家庭訪問などを通して健康問題などの相談に乗り支援活動を行う。
子育て支援センター	未就学の子供たちを抱える家族や本人への支援を中心に保護者と子育て上の相談や支援ならびに、保護者間の連携を図るなどの活動を行う。

## 5 終わりに

周囲の関係機関が、専門性を活かしながらアセスメントをし、児童生徒の置かれた環境に対し継続的かつ計画的に関わることで状況は改善される。複数の関係者や関係機関が、専門的な知識や経験を元に具体的に関わることで支援の幅は広がっていくことになる。

また、チームとしての支援が図られることで、担任等の物理的な負担が軽減されつつ、よりよい支援の効果が期待される。

さらに、一つの事例に対応するために構築された関係者間同士のネットワークは、別の事例に対応するためのチームとなり再び活用され迅速な対応に生かされることにつながっていくと考える。

### ー引用・参考文献ー

- 文部科学省『生徒指導提要』平成22年4月
- 山野則子・峯本耕治編著『スクールソーシャルワーカーの可能性』ミネルヴァ書房 平成19年8月
- 塚元宏雄『課題を抱えた子どもたちの環境改善を図るためのケース会議の在り方』鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 平成24年12月  
(教育相談課 塚元 宏雄)